

開業のごあいさつ

掛水夏恵

なつ皮ふ科
(茅ヶ崎市)

こんにちは。平成23年6月に茅ヶ崎市元町で開院しました、「なつ皮ふ科」の掛水夏恵と申します。

私ごとになりますが、平成5年に群馬大学を卒業後、2年間の臨床研修を経て横浜市立大学の皮膚科に入局しました。横浜市民病院等で経験を積み、横浜市大センター病院等を経て平成17年度から茅ヶ崎市立病院皮膚科部長として6年間勤務致しました。横浜市民病院では、毛利先生に教えを受け、皮膚科医のあるべき姿を見せていただきました。センター病院では、相原先生、山川先生とともに働くことが出来、重症薬疹等症例を重ね、研鑽を積むことが出来ました。多くの先生方にご指導をいただき、誠にありがとうございました。この場を借りて深謝いたします。

私は、地元が大好きで、いずれは茅ヶ崎で開業をと思っておりました。場所探しを始めて暫くして、現在の物件(当時は不動産事務所)に出会いました。橙色のかわいらしい外観にほれ込んでしまい、その物件が、駅と当時の勤務先であった茅ヶ崎市立病院の間にあったことから、運命の出会いのように感じました。事務所から診療所に変更するため、大きくリフォームする必要がありましたが、最初のイメージを生かして行いました。診療所は駅から徒歩3分で、大きな通りには面していませんが、国道1号線と平行に走る抜け道沿いにあり、当初自分で想定したよりも人通りが多い場所です。駅から近いので、通勤や、買い物なども非常に便利です。たまに混雑しているときは、患者さんが外出し時間を合わせて帰ってきて下さり、狭い待合室なので助かっています。また、他県の方が、出張ついでなどに立ち寄って下さることもあり、運命を信じて開業してよかったと思っています。

開院してからあっという間に10か月が過ぎました。毎日慣れないことの連続で患者さんや近隣の先生方にご迷惑をおかけしていますが、スタッフとともに日々精進しています。

まだ患者さんは多くはありませんが、最近では、両親や親戚の知人や小・中学校の同級生のご両親がいらしたり、茅ヶ崎市立病院で診療していた患者さんが受診して下さったり、様々な人の応援を受けていることを実感して励まされています。

当院のスタッフは、茅ヶ崎市立病院で一緒に働いていた小学校の同級生でもある医療事務さんと、同じく市立病院の同僚だったパートの看護師さん、募集に応募してくれた働き者の診療補助兼医療事務のパート2名と一緒に働いています。2名とも気が利くよく働く方で、市立病院からの2人とも息が合い、安心しています。

開業して痛切に思ったことですが、小さな所帯では、皆が元気で働いているときはよいのですが、1人病気になったり、手術予定で入院になったりすると大変です。予定的にはありましたが、開業して数か月のころに、スタッフの1人が入院することになり、10日間のお休みとなりました。クリニック



スタッフのみんなと

全体で休診にしたりしながら、-1で乗り切りました。このようなことも、スタッフが貴重であることを再確認する良い機会であると考え、これからも頑張っていきたいと思っています。

地元茅ヶ崎で、周囲の開業医の先生にも恵まれ、

日常診療

私の医院は、今から50年ほど前の1961年12月24日に父が開院致しました。ビルの2階が内科、眼科、歯科、皮膚泌尿器科の医療センターになっており、併診が必要な時に紹介し易い環境にあります。患者さんは場所がら会社勤めの人が多いのですが、最近では高齢者や子供も増えてきました。

私は1987年に日本医科大学を卒業し本田光芳先生の教室で勉強させて頂いておりましたが、10年前に父が脳梗塞を発症した時から当院で診療しております。今でも本田先生の患者さんにとってもわかり易い、ユーモアを交えた説明はお手本にさせて頂いており、御指導頂いたパッチテストを大学の様に試薬を揃えることはできませんができるだけ行うようにしております。5年前、父が亡くなった時書類上は一度閉院となり、私が新規に開設者となりました。ですから御自分で開業された先生方の様な苦労はなかったといえ父には感謝しております。しかしそれからは全て一人でやらなければならないのは当然のことです。

恵まれたことに神奈川県は学術講演会が非常に多く、蕁麻疹、陥入爪などの疾患、最新のトピックスはもちろんレセプト、法律に至るまで日常診療の問題点を取り上げ実践的、具体的に指導して下さるので積極的に参加するようにしております。講演会に出席すると先輩の先生方とお話する機会も増え、先日は悩みの種の一つであるダーモスコピーのわかりやすい本を教えて頂き勉強させて頂いております。子供が小さかった時はなかなか出席できず、出席の必要性を切実に感じました。新しく学んだことが直ぐ治療効果に出ないことも多いのですが、自分で経

両親や友人達、茅ヶ崎市立病院の時の患者さん方、皆様に支えられて診療を続けられ、深く感謝しています。これからは地域の頼れる皮膚科医として頑張りたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



江川ゆり

横浜相鉄ビル
皮膚泌尿器科医院
(横浜市西区)

験を積まなければ上達もしないのでできることは試しています。最近父の頃から使用していた老朽化した光線治療器をやっと新しいものに変えることができたので、症例を重ねて効果を上げたいと思います。しかし一人だと不安になります。その度に諸先生方に紹介させて頂いたり、御教示を頂き大変感謝しております。明らかに重症の疾患を紹介させて頂く時よりも、外来でもできるはずのことがうまくいかない時の方が、自己嫌悪と申し訳なさで辛い思いになります。

電子化が義務化される中、電子カルテのおかげでふだんは大変便利な思いをしております。しかし機械の苦手な私は指示通りにクリックしているだけなので、一度変わったことが起きるとかえってややこしいことになります。プリンターが故障すれば、漢字を忘れてしまっているし、診療報酬改定に伴うシステム作業は私にとっては大変大きな負担でした。日常の利便さは一度狂ってしまうと大きな問題をひき起こします。原発事故はその最たるものです。震災後の計画停電で御苦労なされた先生も多いことでしょう。

IT化と言えば最近携帯、スマートフォンによる広告の勧誘が多くなっています。果たして本当に信頼性がありまた有用なのでしょうか。費用もかなりかかるのでいつも断っているのですが、先日今回特別に無料というので掲載してみました。患者さんが増えたかどうかはわかりません。スナツジラボによると病院を選ぶ際口コミによるものが53%と最も多く、ホームページなどによるものは5%だそうです。一方、当院は父の頃から皮膚泌尿器科を標榜してい

るため、現在も女性の急性膀胱炎や、過活動性膀胱に対して処方することはありますが手術はもちろん行っていません。それなのにインターネットで包茎の手術を行っている病院に挙げられており、手術満足度の点数までついているのには驚きました。選択しながら利用することが大切だということを実感しました。

話は変わりますが数年前、高齢の男性が下肢の湿疹で当院を受診しました。下肢に楕円形の鱗屑、痂皮を伴った湿疹局面が認められ、典型的な貨幣状湿疹と思われました。貨幣状湿疹の説明をして外用薬を処方したところ、なんとなく不満そうにしています。診察室を出てから看護師さんに「先生はちょっと見ただけで検査もしないで診断した。」と苦情を言われました。そこで皮膚科の病気はもちろん検査が必要な病気もありますが、見て診断することが多いことを説明してやっと納得して下さいました。多

分私の説明も不十分だったのでしょう。

横浜市健康福祉局医療安全課の報告によるとクレームのほとんどは病院側は説明をしたつもりでも患者さんに充分伝わっていないことによる説明不足だそうです。最近はとくに高齢者が多いためそのような問題がより多く起こるのでしょう。また患者さんは検査をしてもらうと安心するのは事実です。しかし皮膚科には見るだけの診断が非常に重要なのは言うまでもありません。2011年の日本臨床皮膚科医学会総会のイブニングセミナーで西岡清先生が「皮膚科医の目の値段」という講演をなさっています。また、以前内科や麻酔科の先生に「皮膚科はむずかしいですね。同じように見えても違う病気がいろいろあるんですね。」と言われたことがあります。正しい眼を持てるようにこれからも1日1日を大切にしていってより一層努力していきたいと思えます。

今年で開業8年目を むかえました

2005年5月、西川武二先生と私の2人で左門町皮膚科を開業いたしました。その年の3月、私は帝京大学、西川先生は慶応義塾大学で定年を迎えました。その1年ほど前に、三井不動産がこの場所、慶応病院のすぐそばに建設するメディカルビルの2階のフロアをすべて診療所とすることが決まり、西川先生がご友人、私も存じ上げている方、を介してその一画での開業を勧められました。おひとりではすこしきついで、2人であればということで、私にお声がかかったという次第です。

場所は外苑東通り、慶応病院のある信濃町駅前から、地下鉄丸ノ内線の四谷三丁目駅に向かって7分ほど歩いたところ。お岩稲荷田宮神社がすぐ裏手にあります。都バスだと左門町停留所のそばで、交通の便はととてもよいところ。しかし、開院前にはたして患者さんがいるだろうかということでした。何故なら、信濃町駅から南は神宮外苑、東宮御所、西は新宿御苑で住民がいないという心配でした。



松尾 隼朗

医療法人社団 慶門会
左門町皮膚科
(東京都新宿区)

しかし、さすが都心で昔から住んでおられる方、新しいマンションがあるおかげで、今ではこの周辺の住民の方々の診療で忙しくしております。

この建物は1階がクリニックに上がるための広々としたエレベーターホールと、コンビニ、院外薬局、SRLの検査施設と画像施設で、2階がすべて診療所。3階から6階までが臨床治験の会社の事務所、診療所、入院施設で占められています。その上は、入り口が別になっているマンションです。2階は総合受付と待合室、キッズルームが共有で、現在のところ診療科は皮膚科、内科、耳鼻科、小児科、ペイン、頭痛外来と、最近参加された大規模な画像施設をもつ放射線科です。医療事務は中央ですべて、ウエルクリニックというSRLの関連会社に取り仕切っており、各診療科のコンピューター管理もしてくれています。レセプト作成もすべて任せていますので、診療点数が変わっても、我々はなにもしることがないので、大変に助かっています。

外来担当は週の前半（月、火、木）が西川先生、私が週の後半（水、金、土）を担当しています。午前は9時半から12時半、午後は2時半から6時まで受け付けます。私の担当の土曜日は午前だけです。第3土曜日に開催される東京地方会は、以前の東海大学時代、帝京大学市原の時代には、参加するのが遠くて大変でしたが、ここからはとても近く、診療後、食事をすませてもゆっくり間に合いますので、大変に助かっています。

診療は大学時代とちがって、ゆっくり患者さんの世間話までできるのが、楽しんでいます。診断に困った時、開業医ではあつかえない疾患や特殊な検査が必要なときは、慶応病院にお願いすることにしてい

ます。最近は大学病院が、紹介状がないと診ていただけないようなシステムに変わったようで、近隣のいままで風邪をひいてもなんでも慶応病院にかかっていた方が紹介状をもとめてやってこられます。当院は慶応病院から、医療連携協力医療機関の認定書（KH00015号）をいただいて、皮膚科にかかっている、薬だけをとりに行くような患者さんをご紹介いただいております。

今のところ、2人とも健康に恵まれておりますので、もう少し診療を続けるつもりでおります。教育、研究から離れて、環境に恵まれたところでの皮膚科の診療がこんなに楽しいとは、大発見でした。私はいま第二の青春です。

